

なみまるくん

うみ・なかま
コミュニケーション

Hokkaido Gyoren Magazine Number 280 February 2012

2



特集

平成23年度 北海道漁業士称号授与式
第57回 全道青年・女性漁業者交流大会

北海道ぎょれんウェブサイト
<http://www.gyoren.or.jp/>

- 1 海ひと夢
様似町長 坂下 一幸さん
- 2 **特集** 平成23年度 北海道漁業士称号授与式
第57回 全道青年・女性漁業者交流大会
- 6 平成23年度 北海道漁業士研修大会開催
- 8 舵取り目指して
- 10 浜の家族物語
石狩湾漁協 中井 健太さん ご家族
- 11 頭すっきり!! ブレイクタイム
- 12 なみまるインフォメーション
- 15 クローズアップ宣伝事業
- 16 おまかせ設計センター
- 17 浜だより

いつもの年より雪深い厚田の港



浜の皆さんと共に夢を実現したい

様似町長 坂下 一幸さん

スポーツとアポイ岳の 2大財産を 大切に生かしたい

私は体育大学を卒業後、様似町教育委員会に体育の専門職として入職しました。入職した昭和46年当時、町はスポーツセンター建設と共に、体育の専門職を求めており、新たな「社会体育」の先駆けとして模索を続けていました。その後様似町は体力作り運動で全国表彰を3度受ける自他共に認めるスポーツの盛んな町となり、スポーツを生活に取り入れて健康に過ごす「生涯スポーツの町」を宣言し、様似町が発祥の生涯スポーツ「テニボン」を開発して推進しています。

また、鉄分とマグネシウムを多く含むかんらん岩で出来たアポイ岳が、日本ジオパークに認定されたことを受け、山から出る鉄分と海の幸との関係について共同研究を進めています。町ではこの2つの大きな財産を大切に生かした



と思っています。

昆布漁業という 大企業を育てたい

様似町にとって漁業は欠かせません。そして町の漁業経営体のうち86%が昆布漁を営み、他地区と同様に後継者問題を抱えています。昆布漁家一つ一つは小さいですが、まとまれば大企業に匹敵すると考え、漁協や漁業者自らが製品化を手掛ける等、この昆布漁業という「大企業」を育てることで、漁業者の減少に歯止めをかけたいと思っています。この思いを込めて「日高

昆布フォーラム」は、2回ほど地元様似で生産者に向け実施、現在は消費地における昆布消費拡大を目指したものと進化しています。

現状に満足せず 一歩進んだ工夫を

私は常に問題意識を持ちながら仕事に取り組んできました。思い返してみますと、転んでは起き上がりながら、道なき道を歩いてきた気がします。その中で学んだことは、「行動無き学問は空虚なり、学問無き行動は空虚なり」という言葉で表される、実践で得た知識の強さです。そして知識を行動に結び付ける知恵の大切さです。

私はいつも浜の皆さんと共に一歩進んだ工夫をしたいと思っています。浜の振興は皆さん自らが主体となって夢を描くことです。その夢の実現に向けて、行政がしっかり支援していくことは、言うまでもありません。



平成23年度 北海道漁業士称号授与式 第57回 全道青年・女性漁業者交流大会

1月19日（木）札幌市の第2水産ビル8階大会議室において、平成23年度北海道漁業士称号授与式、第57回全道青年・女性漁業者交流大会が開催されました。

平成23年度
北海道漁業士称号授与式
13名の漁業士が新たに誕生

開催にあたり主催者を代表して高原道副知事、櫻庭ぎよれん会長が挨拶しました。漁業士制度により、優れた漁業経営を行い、青少年の育成に指導的役割を果たしている漁業者に指導漁業士を、地域の中核となりうる青年漁業者に青年漁業士の称号が贈られています。平成23年度新認定漁業士は、指導漁業士9名、青年漁業士4名の計13名で、高原道副知事より認定書が授与されました。また、新たな認定漁業士を代表して、東しゃこたん漁協の佐藤智治青年漁業士が謝辞を述べました。

平成23年度 新認定漁業士 （敬称略・カッコ内は所属漁協）

〈指導漁業士9名〉

- 中村 貞夫（小樽市）
- 寺井 博（古宇郡）
- 北川 貴浩（ひやま）
- 小名 清一（八雲町）
- 成田 力（えさん）
- 竹島 勝之（いぶり噴火湾）
- 加藤 直人（白糠）
- 高橋 清人（根室）
- 岩崎 豊（北るもい）

〈青年漁業士4名〉

- 佐藤 智治（東しゃこたん）
- 金子 年明（ひだか）
- 楠美 敬一（北るもい）
- 山田 信彦（新生マリン）



3組が
全国大会での発表に進む

全道から地域活性化、多面的機能・環境保全、流通・消費拡大、資源管理・資源増殖の4部門へ8組が、水産高校から1組が、日頃の活動実績発表を行い、3組が全国大会への切符を手に入れました。

〔全国大会で発表する3事例〕

ほたて昆布きんちやく商品化から
販売までの取組

〈消費、販路拡大への第一歩〉



砂原漁業協同組合女性部
石栗 節子さん

近年、女性部員が年々減少傾向であるため、女性部の活動に興味を持ってもらおうと、新た

な取り組みを模索していました。

前浜の海の幸のPR方法を検討したところ、ほたて稚貝を使った「ほたて昆布きんちやく」を考案、柔らかい養殖こんぶでほたての稚貝を包み、かんぴょうで結び、醤油ベースの味付けで完成、平成21年度「浜のかあさん料理コンテスト」へ参加し最優秀賞を受賞しました。

「ほたて昆布きんちやく」は高い評価を受け、昆布巻き製造業者との共同開発による商品化も行われ、マスコミでのPRによる問い合わせも増加。この活動を通じて、女性部活動の自信に繋がりが活性化しました。部員増員による安定した商品作り、新商品の開発に取り組み等、浜が活気づくための活動が続いています。



商品化された「ほたて昆布きんちやく」

人を育て、地域を支える

〈島外より漁師希望者を
受け入れ育成する〉



利尻漁業協同組合漁業士会
小坂 善一さん

高齢化により組合員が減少し、コンブのブランド力低下が懸念される中、島の外から漁師希望者を募集し、地元漁業士会を中心に育成しています。

漁業や離島での生活に慣れることを主眼に、利尻島での生活の雰囲気や状況を知ってもらうための2週間の短期研修と、漁業全体の流れ、漁師の感性を身につけることを目標とした1年間の長期研修を実施しています。

研修を通じて研修生は、漁業免許を取得、磯舟の操船方法、ガラス箱の使い方等を習得、さらに相互扶助精神の理解、地元漁業者との人間関係の構築等、研修生が自分で考え経験し習得することを重視した結果、直近5年間で6名の

研修生が全員磯舟漁師となり、元研修生が研修生を受け入れるなど、新たな受け入れ体制も生まれつつあります。



ホッケの網外し体験



【審査講評】

審査委員長の鳥澤中央水産試験場長より審査講評がありました。

「地酒」と地魚を組み合わせ、留萌管内水産物をPRしたい」という思いで、増毛漁協青年部が主体となり取り組みがスタート、地元の『國稀酒造』に協力を得て、酒造の基礎を学び、船積みした酒を地元酒屋の協力の下販売しています。地元のイベントで限定販売したところ完売、大きな手応えを感じた頃、国税局から品質管理の問題点等を指摘され活動の継続が危ぶまれましたが、指摘事項をクリアし事業を再開しています。



増毛漁業協同組合青年部
西村 人詞さん

なまらうめく俺たちの船酒
「漁師の力酒(ちからみず)」
留萌地区漁協青年部連絡協議会、
活動の活性化へ向けた取り組み

収益の一部を管内の幼稚園や小学校などに寄付、現在では留萌管内全体の取り組みへと発展し地域活性化に貢献しています。増毛産活ホタテと「漁師の力酒」をセットにした年末ギフトを販売、当初目的「地酒と地魚」によるPRを達成、船積み熟成生しようゆ「波の華」の販売等、新たな取り組みも推進しています。



増毛えびまつりで完売した「漁師の力酒」



ひやま漁業協同組合青年部
奥尻支部

川瀬 美弘さん

・奥尻島(しま)で活きる！
～走りだした青年部活動～



ひやま漁業協同組合女性部

秋山 宏子さん

・私たちの女性部活動
～小さな取組からステップアップ～

【この他全道大会で発表された事例】



紋別漁業協同組合青年部

松井 謙典さん

・草の根活動から始めた船上活
～底建網大型ホツケの
差別化に取り組んで～



東しゃこたん漁業協同組合
美国・美しい海づくり協議会

白川 浩治さん

・漁業者とダイバーとの共生に向けて！
～海藻の森がある、
美しい海づくりへの新たな試み～



北海道小樽水産高等学校水産食品科3年

前川原 稔さん(写真左)

小林 佑多さん(写真右)



・手のひらガレイの有効利用
～新商品(Sea級グルメ)の
開発への道Part1～



いぶり中央漁業協同組合
白老潜水漁業部会

堀内 光浩さん

・砂浜域で新・磯根漁業
～魅力ある潜水器漁業をめざして～

平成23年度北海道漁業士研修大会開催

1月18日（水）札幌市の第2水産ビル8階大会議室において、「平成23年度北海道漁業士研修大会」が、全道から参集した120名余りの漁業士が参加して開催されました。



主催者挨拶



北海道漁業士会会長
中田 隆明さん

協同の精神で
未来に繋げる漁業を

漁業士制度が発足して27年が経過し、全道では220名が認定を受け活躍しています。

地域漁村の活性化は地域に住むものの積極性にかかっています。そのリーダーとしての漁業士の使命を十分に発揮していただきたいと思っています。漁村社会には相互扶助、絆の文化が息づいており、先人たちは未開の地北海道で自然と対峙し礎となりました。また、世界が認める協同組合は、今後の日本や地域社会にとって欠かせない組織であり、協同組合運動は地域に根付いた地道な活動として評価されています。安全安心な魚を供給するた

来賓挨拶



北海道水産林務部長
野呂田隆史さん

めにも、先人が築いた北海道漁業を守り、協同の精神で未来に繋げていくことが私たち漁業士の使命と認識し、気迫を持って頑張りましょう。

昨年は3月11日に発生した東日本大震災の対策に奔走した一年でしたが、各地急ピッチで復興が進んでいると聞いています。本年は、国の第3期水産基本計画がスタートし、また、道の第2期北海道水産業漁村振興推進計画の締めくくりにあたり、今後の水産業、漁村の進む道筋を決める大切な一年になります。漁業士の皆さんには、明日の漁業を担う後継者育成のため、より一層のリーダーシップを期待しています。

佐呂間漁協における

漁業士と地域との関わり

「教育を通しての地域貢献」



オホーツク管内漁業士会
佐呂間漁協青年漁業士
船木 桂輔さん

学校の総合学習の中で実施している「佐呂間小学校における水産学習」では、①地元の小学生にサケ、ホタテの解剖を通じて動物の体を知ってもらう、②漁業に関心を持つってもらう、③食べることは命をいただくことを知る機会にして欲しいという3つの目的で実施しています。学校に対する学習内容の提案、ローブワーク、網修理等も行い、学習教材として、ホタテ養殖のビデオを作成しました。

講師を依頼された「佐呂間町子育て講座」では、漁船への乗船体験やホタテの養殖施設の見学等、親子そろって地域漁業への理解を深める機会となりました。今後とも教育支援活動を通じて漁業士活動を続けていきたいと考えています。

来賓挨拶



ぎょれん
櫻庭会長

昨年は3月に発生した東日本大震災、福島原発事故は未曾有の被害をもたらし、我が国の歴史に深く刻まれる大惨事となりました。昨年、参加に向け協議入りしたTPP問題が正念場を迎えるなど、国際問題が荒波となつて押し寄せています。漁業士の皆さんは漁業振興の中核者として、また優秀な担い手を育成する指導者として、大切な役割を担っています。経験と行動力を発揮し、漁村地域が抱える課題克服に向けリードされることを期待しています。

【情報提供】

TPPと
今後の漁政対策



ぎょれん 本間参事

昨年野田首相が参加表明したTPPは、関税、非関税障壁も含め撤廃を基本とする協定であり、食の安全や医療サービス分野等、国民生活に多岐にわたる問題を孕んでいます。TPPは不平等条約であり、今後ともTPP参加断固阻止に向け、漁政活動を展開していきます。

【講演】

厳しい環境こそ自分を強くする



森町長
佐藤 克男氏

経営していた自動制御の電気部品会社が50歳目前で倒産、どん底を味わいながらも再起を確信。持ち前のアイデアを特許に生かし、コンサルタント、太陽光発電の会社を経営、40代には森町長となるべく準備を進めました。町長就任後民間の手法を活かし財政再建に取り組んでいます。どんな仕事でも工夫をすれば道が開けるといふ信念で、変化する環境に対して適応し、克服する方法は必ず見つかるという持論を展開、全道の漁業士にエールを送りました。

目指して

第19回

ひら とも
平田 友輝さん

プロフィール

平成5年6月生まれの18歳。北海道茅部郡森町砂原出身。卒業後は地元砂原で漁業に従事する予定です。



舵取り目指して」。第19回は、北海道函館
走さんお二人にお話を伺いました。

父から漁師の道を示され育つ

7人家族で長男の平田さん、4代続く漁師一家で、一つ違いの弟も同じ函館水産高校に通う2年生です。家業はスケソウダラとホタテ養殖がメインですが、イカ釣やマグロ漁も営んでいます。

平田さんは、子供の頃から漁師を目指す兄弟で父の前に座り、漁の話をよく聞かされてきました。沖での心構えや漁への思いを父が熱く語り、兄弟がじっと聞き入る姿は、さながら映画の1シーンを彷彿させます。中学3年の時には進路を漁師一本に絞り、この高校の門をくぐりました。



家族への感謝の気持ちを いつも忘れない

早朝から晩遅くまで、日々の漁を家族全体で支えていて、ホタテ養殖では陸の作業を家族ぐるみでこなしています。家族が皆しっかり働いている姿を見て、家族の大切さを感じながら平田さんは育ちました。「二人とも高校に行かせてくれて、家族にはいつも感謝しています。それと同年の彼女雅ちゃん

が、毎日お弁当を作ってくれたことも。」と笑顔で話してくれました。

「生き生きと仕事をする、カッコ良い父になりたいです。漁師仲間を大事にしながら早く弟と一緒に船に乗って稼いで、いつかは父を追い越したいです。」と話す平田さん、第15海運丸に乗り組み漁師の道を歩み始めます。



刺網からサメを外す平田さん



天測にて船の位置を確認中



潜水実習



木村 駿也さん



船取り目

プロフィール

平成5年10月生まれの18歳。北海道二海郡八雲町出身。卒業後は地元の八雲町で漁業に従事する予定です。

浜の若き後継者を紹介するシリーズ「
水産高校を訪ね、将来漁業者を目指す生徒

ホタテ養殖への手ごたえを感じ始める

八雲が実家の木村さん、北斗市七重浜にある函館水産学校の近所の下宿しながら、高校生活を送ってきました。「初めはバスの乗り方も知らず戸惑いましたね。」と下宿生活を始めた当時を振り返ります。

実家はホタテ養殖がメインの仕事で、タコ箱漁も営んでいます。「最初は辛くて嫌でしたが、中学に入った頃から手伝いが面白くなってきて、仕事を継ぎたいと思いはじめました。」と話す木村さん、小さな貝を育て出荷していく一連の流れを覚え、ホタテ養殖に進む手ごたえを感じ始めています。



仲間との絆を大切に する漁師になりたい

小学生の頃からはじめた柔道では、高校時代、全道大会の出場経験を持つ有段者です。柔道で心を磨き、常に冷静さを保てるようになったと話してくれました。

「皆から信頼される仕事をして、段取り良く動ける漁師になりたい。」と話す木村さん、理想の漁師である父は、仕事に厳しくかつ周りに気を遣いながら和ませてくれる大切な存在で、いつも仲間にも囲まれています。昨年、震災で養殖施設が津波被害を受けましたが、助け合いながら復活を遂げることが出来ました。木村さんは高校生活を通じて仲間との絆を深め、春からは八雲の海に漁師の夢を追いかけます。



柔道の大会での木村さん(写真右)

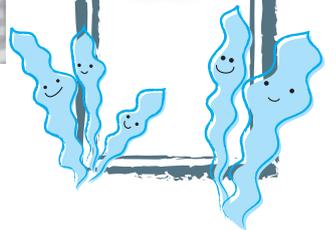


9名が犠牲となった「えひめ丸」の慰霊碑に黙とう
(ハワイ州オアフ島にて)



海中での

浜の家族物語



「浜の家族物語」では、「なみまるくん」の表紙に登場するご家族を紹介いたします。今回は、石狩湾漁協の中井さんご一家です。

厚田の浜が 自分の肌に合わせていた

中井健太さんは、父の健二さんを親方に、ホタテ稚貝養殖を手伝っています。3年前からはニシンやカレイの刺し網漁、タコ箱漁の船頭を務めています。年が明けてからは時化が多く、ニシンはまだ見えていないそうです。春からはホタテ稚貝出荷のピークが訪れ、厚田の港で開かれている朝市にも出店している健太さんは、忙しい日々を過ごします。札幌の高校を卒業後、札幌中央市場の青果部で働いていましたが、次第に厚田の浜が自分の肌に合わせていると感じ、21歳の冬に戻ってきました。



した。

奥さんの渚さんは隣の望来地区の出身で、健太さんとは知り合いからの紹介で出会いました。「漁師についてほとんど知りませんでした。」と話す渚さん、この3年程は浜に手伝いに行けるようになり、健太さんの仕事「漁」について分かってきたそうです。

漁に真つすぐな 健太さんを

しっかり支える

「自分の仕事を理解してく

れて、家庭を任せられることがありがたいですね。」と話す健太さんを、「仕事に対して真つ直ぐなところが良いところ。」と渚さんはしっかり支えています。長女の陽花ちゃんもピアノと習字を習う小学1年生で、ちよつと内気な女の子、長男の彪真くんは、ウルトラマンが好きで4月から小学生になる朗らかな男の子、次男の翔龍くんは、昨年12月に誕生したばかりです。

「父には刺し網にしても、まだまだ追いつきません。今出来ることをしっかりやって、父に負けない漁師になりたいですね。」と笑顔の健太さんに、親族で漁を営む中井ファミリーの柱として、真つ直ぐに漁へ向き合い続ける姿を感じました。

《文／菅野 厚》



プレイタイム

クロスワードパズル

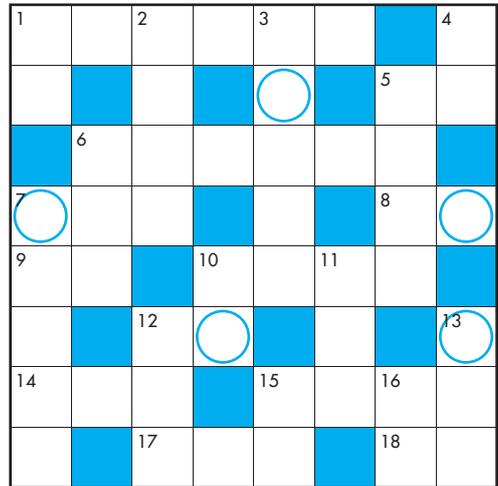
次のクロスワードを完成させ、○印に当たる言葉をうまく並べてください。さっぽろの冬の一大イベント！

タテのカギ

- ① ○○で鯛を釣る
- ② 石川五右衛門の名セリフ「○○○○かな」
- ③ 世界遺産の白川郷、五箇山独特の家屋
- ④ ○○→夏→秋→冬
- ⑤ 解け残った雪
- ⑥ 決められた路を走る○○○バス
- ⑦ 雪で作る人形
- ⑩ ○○撮り、○○送り、○○回し
- ⑪ デラウェア、キャンベル、ナイヤガラと言えば？
- ⑫ 頭がよく、水族館での芸が一番の人気物
- ⑬ グリーンとゴールドがある果物
- ⑮ 犯人のこと
- ⑯ 次の冬季オリンピック開催都市

ヨコのカギ

- ① 福井で獲れたズワイガニのブランド名
- ⑤ いくらお酒を飲んでも平気な人
- ⑥ 海外ロケのロケって？
- ⑦ 水性⇄○○○
- ⑧ 春の七草のひとつ
- ⑨ ○○券、○○魚、○○メダル
- ⑩ 好きな食べ物
- ⑫ リビング
- ⑭ 決まり事。規則。
- ⑮ 生○○○、○○○○作家、○○○○事故
- ⑰ おでんにつける薬味
- ⑱ 身分。階級。



正解者の中から抽選で5名の方に図書カードを進呈いたします。ハガキ、FAXもしくは電子メールに答えと浜のたより及びご意見・ご提言など、住所・氏名・年齢を書き添えて、どしどしご応募ください。

応募いただいた方の個人情報は、クイズ当選者への図書カード進呈と、広報なみまるくん「浜だより」の、おたより掲載（氏名・市町村名）にのみ、使用いたします。

応募先

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1番地
北海道漁業協同組合連合会 総務企画部 広報担当
*FAX番号 011-(242)-3543(2月15日消印有効)
*電子メール info@gyoren.or.jp

解答 となります。

フ	シ	ブ	ク	ロ	カ	ミ
ユ	カ	ク	シ	ヤ	ミ	
エ	ン	ア	ロ	マ	カ	
カ	ン	マ	イ	ヂ	ザ	
オ	ン	カ	シ	エ	リ	
ミ		デ	ラ	ツ	ク	ス
コ	ウ	シ	シ	ウ	フ	
シ	リ		ハ	ツ	ヒ	ノ

1月号の解答と当選者
マツカザリ

(根室市) 冷清水えりかさん
(釧路市) 奥井 裕一さん
(北斗市) 小藪 尚代さん
(紋別市) 岩瀬 大輔さん
(初山別村) 福西 七重さん

間違いさがし

間違いは5つです。

※右と左の絵には、5カ所の異なるところがあります。さあ、見つけてください。(印刷のズレや汚れは関係ありません。)



※答えは17頁にあります。

Information 1

全道で地区組合長会・地区専務参事会を開催

平成24年度の各事業の課題を討議

1月10日の釧勝地区と北見地区を皮切りに、全道で地区組合長会、地区専務参事会が開催されました。組合長会では、全道漁協組合長会議が50周年を迎え、国際協同組合年にあたる今年、記念事業を行うことなどが討議されました。またぎょれんからは、水産物貿易問題などについて報告しました。

専務参事会との懇談会では、各事業の課題克服に向け、事業計画策定の際の考え方を説明しました。総合的な所得補償制度確立や有害生物漁業被害対策などの漁政・環境・指導事業、各魚種の安定的な生産体制の再構築を目指す販売事業、系統ブランド資材評価推進委員会を通じ系統一体で取り組む購買事業等について意見交換されました。今回いただいたご意見を十分検討し、次年度の事業計画策定を進めます。



1月13日(金)留萌水産ビルで行われた留萌地区組合長会の様子

Information 2

「お魚殖やす植樹運動」の活動を報告

道女性連の23年間にわたる 植樹運動について発表

12月16日、東京の経団連会館で「生物多様性民間参画パートナーシップ第1回会合兼美しい森林づくり企業・NPO等交流フォーラム」が開催されました。道女性連が、昨年10月に行われた「いきものにぎわい企業活動コンテスト」で、森づくりに特色ある活動をした団体として「農林水産大臣賞・国際森林年特別賞」を受賞したことを受け、平賀会長が「お魚殖やす植樹運動」について発表しました。「資源豊かな海を取り戻すため、『100年かけて100年前の自然の前浜を』を合言葉に90万本以上を植樹してきました。」と述べ、23年間にわたる植樹運動を振り返りました。



「お魚殖やす植樹運動」の取り組みについて発表する道女性連平賀会長

Information3

3連合同研修大会を日高・北見両地区で開催

TPP参加の問題点を研修(日高地区)

1月20日(金)十勝川温泉観月苑において、第11回JF日高地区マリンバンク・共済・購販推進委員合同研修大会が開催されました。逢山日高地区漁協購販推進委員長が主催者を代表して「漁協・系統組織のもとに一致団結して力を合わせ浜と生活を守りましょう。」と挨拶、また平野日高管内組合長会会長は「去年は津波被害を受けましたが、今こそ自らが現場に立ち、自分の畑である漁場を守るという基本に立ち返ることが大切。」と来賓として挨拶しました。

ぎょれん本間参事は、「TPPと今後の漁政対策」と題して、現段階で明らかになっているTPPの概要や問題点を指摘、強い北海道漁業の確立に向けた漁政対策等について講演を行いました。また田口共水連北海道日高支所長は、TPP参加の問題点や共済への影響について指摘、参加した各委員の皆さんは、複数の視点からTPPについて解説があり、改めて理解を深めました。

協同組合運動を共通テーマに研修(北見地区)

1月20日(金)北見市留辺蘂町温根湯温泉大江本家において、第10回となる北見地区マリンバンク・購販・共済推進委員合同研修大会が、110名余りの参加者を集めて開催されました。大会に先立ち購販推進委員活動を永年務められた雄武漁協の佐藤秀一さんが、退任功労表彰を受けました。

今回の大会は「協同組合運動」を共通テーマとして、まず末岡信漁連副会長が『浜の幸せを求めて—今こそ協同の時代—』と題し、協同組合運動の歴史や現代における意義等を講演、ぎょれん石川環境部長からは、『漁場環境の保全について』と題し話題提供がありました。委員の皆さんからは「サハリン油田開発の情報をもっと提供してほしい、ぎょれんが植樹活動の取り組みをしていることを初めて知った。」等、質問や意見が活発に出されました。



主催者を代表して
逢山日高地区漁協購販推進委員長が挨拶



熱心に講演を聞く参加者(日高地区)



退任功労表彰を受けた雄武漁協佐藤さん(北見地区)



話題提供後の質疑応答 藤田北見地区漁協購販
推進委員長(写真中央)、石川環境部長(写真右)

Information4

平成23年度全道漁協職員簿記・経理研修会開催

1月11日（水）から札幌市のぎょれん第1会議室において「全道漁協職員簿記・経理研修会」が行われました。今年度は、毎年開催されている初級コースと隔年開催の中級コースが行われました。

実際に手を動かして 仕訳や記帳を演習（初級コース）

11日から3日間行われた初級コースには、簿記・経理の経験が少ない職員12名が参加しました。研修では、ぎょれん指導教育部の職員が簿記の基本概念や各事業の勘定処理を説明、参加者は実際に手を動かして仕訳や記帳の演習を行いながら、残高試算表の作成までを学びました。参加者からは「実務だけではわからないことが確認できて良かった」という声も聞かれ、充実した研修となりました。



解説を聞いた後演習問題に取り組む参加者
（初級コースにて）

決算整理事項を中心に 業務報告書の作成までを学ぶ（中級コース）

16日からは、簿記・経理の入門レベルを習得済みの経験者12名を対象に、中級コースが行われ、はじめに富田指導教育部長が「今回の研修で学んだ内容が実際に決算を担当する際に活用されることを願っています。」と挨拶しました。この研修では、漁協における決算の概要や決算整理事項を中心に解説し、2日目の午後からは、貸借対照表・損益計算書作成の演習等を行い、決算整理事項を中心に業務報告書の作成について学びました。



難しい内容でしたが、図などを使い
噛み砕いて解説（中級コースにて）

Information5

秋鮭・いくら年末折り込みチラシ80万部配布

親しい人が集う食卓に北海道の秋鮭・いくらを

家族や友人が集まる機会も増える年末年始。その団らんの場に北海道の秋鮭・いくらを食べていただき、もっと楽しいものにとの願いを込めて、12月上旬から下旬にかけて、全国主要都市で新聞折り込みチラシを80万部配布しました。チラシには、「塩鮭のソテーきのこのクリームソース」や「いくらとポテトサラダピンチョス」のメニューを紹介しました。また、耳よりコラムのコーナーでは、北海道産秋鮭の美味しさのヒミツや、生活習慣病に効果のあるいからの成分について掲載しました。なお、このチラシはなみまるくん1月号にも挟み込んでいます。



**クローズアップ
宣伝事業**

北海道のほたて・昆布を 全国雑誌で紹介

多くの消費者にほたて・昆布の新たな活用法を知ってもらうことを目的に、女性のライフスタイル雑誌「Mart」、グルメ雑誌「オレンジページ」「dancyu」に、特集記事・広告を掲載しました。

～ほたて～ 雑誌「Mart」2月号掲載

名古屋・大阪・沖縄の読者が考案した、ほたてと地元食材・名物料理を組み合わせた新しいメニューを紹介。例えば名古屋名物「エビフライサンド」をヒントに、エビの代わりにほたてを使った「ほたてフライサンド」、沖縄でお馴染みのシークアサーとほたてを和えた「ほたてのアクアパッツァシークアサー風味」などを掲載。



どんな料理にでもマッチする万能食材ほたてをPRしています。



～昆布～ 雑誌「オレンジページ1月号」「dancyu1月号」掲載

「目に見えてやさしい、天然だしのおいしさ」というタイトルで、「体にやさしい・自然・美味しそう」といった昆布のイメージをダシの色で読者に訴えています。北海道産昆布から取れるだしは澄み切った自然色で、体へのやさしさの証。毎日使うだしを見直すきっかけとなるようPRしています。





なまかせ設計センター

住宅の換気方法 ～居室の換気は熱交換型 吸排同時方式が主流～

詳しく
取り上げて
行きま～す



前は、機械を使用して強制的に換気する機械換気について3つご紹介しました。今回は、熱交換型吸排同時方式を使った居室の換気についてお話しを進めていきます。

●住宅等の居室には換気設備の設置が義務付けられています

居室とは、住宅の居間、寝室、子供部屋等、継続して使用する部屋のことをいいます。平成18年に施行された改正建築基準法は、住宅の気密性が高くなったことで、住宅用の建材や家具等から発せられる化学物質を原因とした「シックハウス症候群」を防止するため、居室の強制的な換気を求めています。(それ以前に建てられた建物には適用されません)

*シックハウス症候群…部屋に滞留した化学物質によって、めまい、吐き気、頭痛・眼・鼻・のどの痛み等の症状が出る。

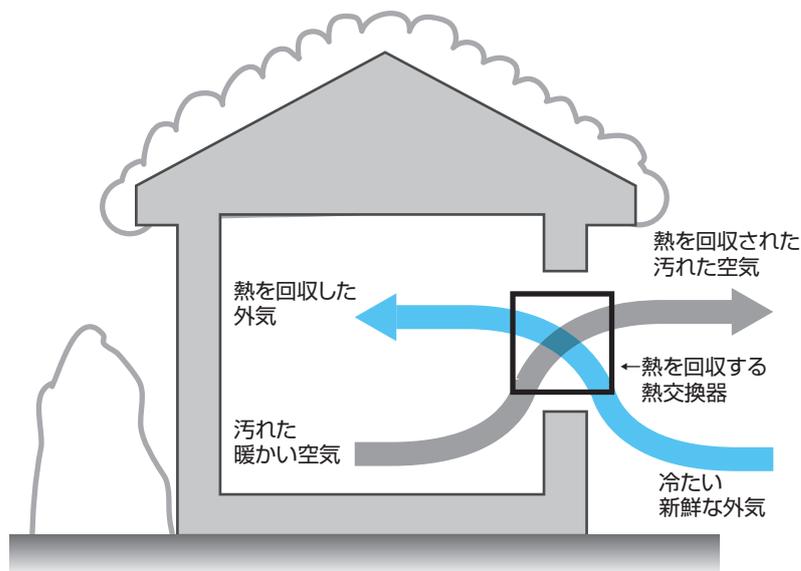
●換気についての基準 (建築基準法)

1時間当たり部屋の容積の半分以上を換気出来る設備を設ける事。

*部屋の容積=床面積×床から天井までの高さ

●居室換気扇は「熱交換型」が主流

熱交換型換気は、冬であれば暖気を外に捨てないで、熱をある程度回収して換気を行うシステムです。



浜の皆さんから「おうち」の疑問、質問、お悩みを募集しています。

宛 先：札幌市中央区北3条西7丁目1番地
北海道ぎょれん総務企画部広報担当
F A X：011-242-3543
メール：info@gyoren.or.jp

建築・設計に関するご相談は

(株)ぎょれん設計センター
TEL：011-281-8509

浜だより

今月号の表紙中井さんご一家がお住まいの石狩市厚田区は、例年をはるかに超える雪に見舞われています。写真を撮影した日は時折浜風が強く、雪も舞う中の強行軍だったとのこと、極寒を感じさせない素敵な笑顔に救われた思いです。中井さん、ありがとうございました。(編集部)

新しい年こそすべての国民の願

いが届き、希望の持てる年になることを願っています。そのためには国民とすべての国民との強い絆がもつと大切であろうと考えています。

(島牧村 泉谷 泰三さん)

漁船に乗っている皆様方、寒い

のでお身体に十分気を付けてください。おいしい魚がたくさん揚がるように心から祈っております。

(北斗市 小敷 尚代さん)

いつも楽しく拝見しています。

とりわけ浜の家族紹介に関心を持って読んでいます。一度は家を離れた若者が、いろいろな理由で故郷に戻り漁業に新たな活路を見出し、希望を持って精力的に漁業に従事している姿を大変力強く感じています。

(根室市 田中 利美さん)

春からのホタテ漁に向けて準備

が始まりました。寒い中がんばっています。

(紋別市 岩瀬 大輔さん)

新年明けましておめでとうござ

います。去年は全国でいろいろなありました。今年は何事にも負けない年でありますように、皆さんの健康と豊漁を願っています。

(せたな町 葛西 和子さん)

今年には雪が多いので、日本列

島は大変ですよ。今年にはキレイがたくさん獲れますようにと祈りながら、今ペンをとっています。

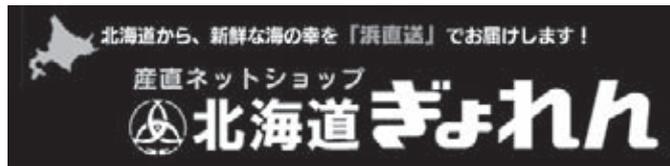
(初山別村 福西 七重さん)

11pの間違いさがしの答え



ぎょれんでは、北海道の旬の幸を産地直送でお届けするため、「産直ネットショップ北海道ぎょれん」をオープンしています。ご自宅用、贈答用どちらにも是非ご利用ください。

URL : <http://www.gyoren.net>



今一度 確認しよう ライフジャケット

(社) 北海道漁船海難防止・水難救済センター



とぎ汁で海を汚さない、おいしい無洗米です。

新発売 **大漁御膳**

無洗米 **ななつぼし**

北海道 **ぎょれん** **ホクレン**

無洗米「大漁御膳」のお求めは、お近くの漁業協同組合へ

ぎょれんグループ

専門のノウハウ 浜に密着した機動力

漁業資材・施設設備で北海道の浜をサポート

マリノサポート 株式会社

本社 TEL(011)261-0884 函館支店 TEL(0138)22-4146 釧路支店 TEL(0154)41-7145 長万部営業所 TEL(01377)2-4118

なるほど!簡単!



浜料理

浜なべ



レシピ

【材料】(4人分)

- ・甘えび…10尾
- ・ねぎ…1/2本
- ・ボイルホタテ…小10個
- ・白菜…1/4玉
- ・カジカ…半身
- ・豆腐…半丁
- ・しめじ…1袋
- ・昆布…10センチ程度1本
- ・味噌…適量

【作り方】

- ① なべに昆布を入れて水をはっておきます。
- ② なべに火をつけ煮立ってきたら甘えび、ボイルホタテ、カジカを入れて煮込みます。
- ③ ②がひと煮立ちしたら、ねぎ、白菜、しめじ、豆腐を入れます。
- ④ 煮立ったらいったん火を止めて、味噌を入れて出来上がり。

シンプルに美味しくあったまる
今回は「浜なべ」をご紹介します。この鍋は留萌特産の甘えびとホタテを使い、カジカが味に深みを加えています。寒い冬、シンプルで美味しい浜なべであつたまりましょう。



北るもい漁協
逢坂 幸子さん



関係で未来につなぐ北の森
本書の本文用紙は原料の一部に
道産間伐材を使用しております。

北の魚情報がぎゅっ!北海道ぎょれんウェブサイト
www.gyoren.or.jp/